

校 報

第 2 3 9 号
令和 5. 6. 5
鳥 羽 商 船
高 等 専 門 学 校

校 長 挨 拶

物流と情報の流れは、いうまでもなく社会経済の動脈です。国内の海上輸送は、貨物輸送（ton・km:輸送重量距離ベース）の4割前後を担って重要な産業となっています。報道等で「2024年問題」として知られているとおり、2024年4月からトラックドライバーの時間外労働時間規制により労働力不足が懸念されています。1台のトラックを長時間動かしてきた従来の輸送ルートを維持できなくなり、ドライバーの人数が不足するとの予想があり、業界も量子コンピュータを援用した配送計画改善などに努める一方、航空機、鉄道とともに、不足する物流の担い手としてフェリー等の海上輸送も期待されています。

船員の働き方の改革も進んでおり、労働環境の向上など魅力ある努力が払われています。下船時の長期間の休みや陸上での管理業務など働き方に特徴があり、GXやDXが進む社会変革の中、有為な人材が求められています。外航海運では、外航ならではの業務で海外に行ける魅力は何物にも替えがたいところ、これまでも多くの人材を本校は送り出しています。手元に届く外航船社の社内誌には、新人の外航船社志望理由が書かれており、外国へ行けることが魅力であったことが如実に読み取れます。

高度の情報化社会に向かって急速に時代が変化し、少子化の中、有為な人材が求められているのは、商船、情報、機械、電気電子、制御、すなわち本科、専攻科にかかわるすべての領域の産業に共通の状況となっています。一方、採用側からの選考は、このような時代だからこそ、厳しいものがあると思います。夢の実現に必要なのはゴールに辿り着くための各自のスキリングです。それは一朝一夕にはできません、日ごろの積み重ねが功を奏します。就活については、次のような話をきいています。授業を面白く感じてうけてきた学生と、つまらなく授業を受けてきた学生との違いは就活で差がつくという話。面白い授業を数多く経験し、授業を面白く、楽しんで前向きにうけてきた学生の多くは、日頃の場面での多くの質疑やグループ討論で鍛えられていたから、大事な場面でも自分の言葉で返せます。日頃の授業やゼミでも先生方もそういう雰囲気をつくる工夫をしていると思います。そういう場の主体的な思考と行動の経験値は、スキルの糧となります。

過去にどこかで述べたことがあります、今、求められているのは、じっくり時間をかけるPDCAでなく、OODA、すなわちObserve, Orient, Decide, Act, 情報を収集するだけでなく、整理し、状況から方向づけをし、判断して行動する、ここまです短時間に主体的におこなうスキル、「どうする〇〇?」と問われたときに適切に即断できること。常に安全運航を背負っている船乗りのスキルとも通じるところがあると思っています。

OECDの「学びの羅針盤2030」として、1. 新たな価値を創造する力、2. 対立やジレンマに対処する力、3. 責任ある行動をとる力があげられているようです。過去の事例を問題解決に通用できない、先行きの見通しがなかなか難しい時代になり、誰かの指示に受け身で応じるのではなく、より主体的に自分の意思で考え行動すること、自律する人材が求められています。

ある大学の学長先生は、「楽しんで仕事をしなきゃ!」が日頃のお言葉でした。やらなければならないからやるのではなく、与えられたタスクを着実に片づけるにとどまらず、仕事を面白く楽しむ、その仕事から発展的に“あれやこれや”と可能性を探索することを楽しむべし、これを主体的行動の機会と捉える。この姿勢は自律する人材像につながっていると思っています。みなさんも、毎日の学校生活を主体的に面白く受けとめていますか!? みなさんが一人残らず、ワクワクする毎日を送って、貴重な5年、5年半、7年または7年半を楽しんで過ごされることを願っています。この楽しさ、面白さのなかに、海外との交流、海外の社会、文化、我が国や世界の歴史に触れることを心がけてみてください。4月18日には、アラブ首長国連邦のドバイにあるAbu Dhabi Maritime Academyが本学を訪問しました。皆さんの行く手には、国際物流を担う海事・海洋分野から、電力エネルギー、機械システム、ビジネスの新たな起業・スタートアップにいたるあらゆる分野での国際交流の可能性も広がっています。学校は“楽しい”。

4月から、新たに校長補佐として窪田教授（将来計画担当）と豊田教授（ダイバーシティ推進担当）、船舶運航センター長に小島准教授が就任されました。よろしくお願い致します。